第94号　**たけの子だより**　2017年8月31日

「幸福は日々の中に」

先日、フォーラム福島で知的障がい者施設鹿児島しょうぶ学園のドキュメンタリー映画『幸福は日々の中に』を観てきました。初日だったので、学園長の福森伸さんが鹿児島からおいでになっていて、トークショーでお話しをお聞きすることができ、深い感銘を受けました。今回は少しだけその内容をご紹介します。

まず、最初に話されたことは、「ひとつのリスクを守るために、99の自由を奪うのか」ということです。

わたしたちは社会の中で生きています。なので、ルールがあります。でも、社会のルールは時代によって変わります。時代が変われば、禁止されていたことも受け入れられたり、極端な時は称賛されたりします。

例えば、1時間でお昼ご飯を終わらせなくてはならない、というルールがあったとします。でもどうしても、1時間半かかってしまう人がいると、その人は〝ルール〟を守れない人です。でも、だったらお昼ご飯は2時間、とすればいいのです。

またある時、木を磨く作業をしていると、利用者の方がヤスリのかわりに釘を使ったそうです。最初「傷がついた」と思ったそうですが、発想を変えて「傷は模様だ」と思ってウルシを塗ってしあげたら実に味のあるアートになったと言います。**障がいって、受け止め方で、全く変わってしまいます。**

入所者に対して向ける福森さんの目は本当に優しくて、自然で、尊敬すら感じました。実際、福森さんは、彼らのそばにいたいと思っているそうです。彼らほど純粋でウソのない人たちはいないから。

わたしたちは欲にまみれていますよね。あれしたい、これしたい。あれほしい、これほしい。でも、だからこそ、文明が、科学が発展してきたと言えます。

なぜお坊さんが座禅をするのだと思いますか？　それは、ガマンを体験するためです。現代はある意味、修行のない、五感を使わない世の中になっています。周りが悪いから、わたしは跳ねのけられないんです、というように。

また、わたしたちは常に自分のやりたくないことをしなくてはならないという刷り込みを受けていませんか？

障がい者は五感で生きています。やりたくないことはやりません。福森さんは、「彼らの良さと自分たちの良さを認め合えればいい」といいます。「普通は人間が目標に合わせる。でも、福祉（幸せという意味）は目標を人間に合わせる」のだ、と。

来場者の「福森さんの『幸福』とはなんですか。」という質問に対し、福森さんは「発想ができる状態のこと」と答えていました。

将来はどうなるのか、なんてわかりません。だからこそ、先がわからないからこそ、ワクワクするのだそうです。何が正しいのかもその時々によって、相手によって変わります。そのときそのとき、何ができるのか、相手にとって何が幸せなのかを考えること、それが福森さんの幸せなのだそうです。

ありのままを受け入れるって、言葉でいうのは簡単ですが、この映画を観て、そして福森さんのお話しを聞いて、わたしは何度も深くうなずきました。

映画の最後で、利用者さんも職員もボランティアもみんなでひとつの音楽を作り上げているのを観ました。福森さんは、音がずれることさえも、「音をずらすことができる特質」ととらえて音楽を作っていました。まさに「発想の転換」です。

園児の中で、なんでも反対言葉に変える子がいます。わたしも発想を変えて、なんでも反対に変えられるなんてすごいなって思って、「反対にかえられるんだね」と言ったら、なんだかうれしそうでした。小さなことですが、わたしの頭の中でその子を見る目が変わったのでした。

辺見妙子

寄付や支援をいただいた方々　7月　確認分

子どもたちへの支援が長くつづきますように…

支援金

渡部　鋭幸　様
山本　和子　様
高橋　紀夫　様
牛山　元美　様
子どもたちを放射能から守る世界ネットワーク　様

お米・麺類

森　雅英　様

ボランティア

須山　浩司　様

たくさんのご支援を、ありがとうございました。

gooddo 支援金　7 月分
＜ご支援金＞　２，４２２円
＜ご支援金詳細＞
1、いいね！、商品購入案件３５５円
2、毎日クリック等　２，０６７円